

2026

京都芸術大学 ICA京都
× Port B



Terap Festival オープニング作品「Indung Braga Berjaga」(2024年, バンドン)

修学旅行プロジェクト

京都芸術大学 ICA KYOTO × PORT B

Akira Takayama
Port B



プロジェクト概要

「修学旅行プロジェクト」は、演出家・高山明（Port B）による《架空の修学旅行をつくる》というアートプロジェクトを基盤に、ICA京都と協働して展開する国際的な教育・文化交流プログラムです。

アートを学ぶ学生たちが「旅」を通して世界と出会い、社会を観察し、歴史を学び、現代におけるアートのあり方を考えることを目的としています。

2025年度から3年間にわたり継続的に実施する計画で、美術大学が試みる新しい修学旅行のかたちです。

修学旅行プロジェクト

京都芸術大学 ICA京都
× Port B

長期的な目標

本プロジェクトは単なる旅行ではない、
あたらしい教育モデルの創出を目指します。



国際教育ネットワークの構築

ASEAN諸国と京都芸術大学の間で持続可能な教育プログラムが構築され、長期的なネットワークが形成される。



新しいカリキュラム

東南アジアを舞台に、現代アートという土壌における視野の広げ方や、問いの設定を実地で身につけるカリキュラム・モデルを提案する。



成果の蓄積

修学旅行のツアーコースは京都芸術大学ICA京都の遺産として蓄積され、毎年新たなツアーが生まれる。



社会実装の可能性

将来的には、現代アートを学びたい一般の人々にも公開し、教育資源（ガイドブックの出版、専攻の立ち上げ、事業化・・・etc.）として活用する。

修学旅行プロジェクト

京都芸術大学 ICA京都
× Port B

募集概要

2026年度バンドン編
プロジェクト参加者募集

対象	京都芸術大学に在籍する学部生、および大学院生 5名程度
開催日時	2026年9月14日（月）～21日（月）（7泊8日）（予定）
訪問予定先	インドネシア、バンドン
参加費用	実費負担（航空券代・高速鉄道運賃・現地食費）：8万円～11万程度
成果発表	帰国後にドキュメンテーションおよび報告会を実施

[応募フォーム](#)



これまでの活動

2026年2月8日～15日

ゴールデン・トライアングル編



第1回目の修学旅行は、タイ、ラオス、ミャンマーにまたがるゴールデン・トライアングル（黄金の三角地帯）を巡りました。かつて世界最大の麻薬製造地帯だったこの地は、現在は政治・経済・観光・アートが複雑に交差する、非常に興味深い観光地となっています。私たちの旅では、チャンライ、チェンマイ、チェンセンといったタイ北部の町をベースに、多様な民族が暮らす山岳地帯の村々を巡り、さらにはメコン川を渡って、ラオスの中国経済特別区を訪ねることができました。参加学生は、旅の体験を知識の獲得にとどめず、実際に現地で得た視点をもとに作品プランを作りました。

これまでの活動

2025年2月

現地リサーチ（チェンライ、チェンマイ、バンコク）



2025年2月、プロジェクトチームはタイ北部チェンライとチェンマイ、バンコクにて現地リサーチを実施しました。チェンライでは、タイ・ミャンマー・ラオスの国境が交わる「ゴールドトライアングル」や、山岳少数民族の子どもたちが通う学校「さくらプロジェクト」を訪問。現地の教育環境やNGO活動に触れながら、境界／教育／社会課題／アートツーリズムというテーマの実態を、現地の状況から捉えることができました。この現地リサーチは、2025年度に実施した修学旅行の訪問地やプログラム内容を具体的に設計するための基礎となりました。

これまでの活動

2024年3月

トークイベント@京都芸術大学ICA京都



ICAKyotoTalk 003 2024.3.5
会場: 京都芸術大学 人間館1階 NA102 & オンライン・トーク

高山明 Akira Takayama
2024年度国際プログラム 高山明「交換修学旅行プロジェクト 京都/メコン」企画紹介および「タイランド・ビエンナーレ チェンライ 2023」報告会

ICAKyoto 2024 International Program, Akira Takayama 'School Excursion Project, Kyoto / Mekong exchange program' project introduction and 'Thailand Biennale, Chiang Rai 2023' report meeting

1989年生まれ、演出家・アーティスト。京都芸術大学大学院芸術研究センター長。2018年、東京で実施された高山明の「東京修学旅行プロジェクト」では「外国人「暮民」「た命者」として生きる人々の暮らしと巨大都市に買収される場所を題材に、今回、ICAKyotoと協働する「交換修学旅行プロジェクト 京都/メコン」は、修学旅行のメカである「京都」という街を舞台に展開しようとする試みである。ICAKyotoの2022年国際シンポジウム「現代アート・キュビタルの舞台から京都・チンマイ、ジャズ・カルタを響く異国性」にて開催された「都市の

1989年生まれ、演出家・アーティスト。京都芸術大学大学院芸術研究センター長。2018年、東京で実施された高山明の「東京修学旅行プロジェクト」では「外国人「暮民」「た命者」として生きる人々の暮らしと巨大都市に買収される場所を題材に、今回、ICAKyotoと協働する「交換修学旅行プロジェクト 京都/メコン」は、修学旅行のメカである「京都」という街を舞台に展開しようとする試みである。ICAKyotoの2022年国際シンポジウム「現代アート・キュビタルの舞台から京都・チンマイ、ジャズ・カルタを響く異国性」にて開催された「都市の



2024年3月、ICA京都にて、演出家・高山明（Port B）とICA京都による新企画として「修学旅行プロジェクト」の構想を紹介するトークイベントを開催しました。あわせて、前段企画として大学院生3名が参加した「タイランド・ビエンナーレ チェンライ2023」視察の報告を行い、現地での学びや気づき、現代アートと都市の関係性について共有しました。本企画は、大学院生3名が現地で得た学びを共有し、次年度以降の展開に向けた重要な第一歩となりました。



旅を通してアートについて考える

初回の2025年度は、タイ・ラオス・ミャンマーが接するゴールデン・トライアングルを訪れました。2回目となるバンドン編は、地域住民・アーティスト・大学関係者が協力して住民の居住エリアで開催する劇場を持たない演劇祭「Terap Festival」に参加します。25年度は参加者を京都芸術大学の学生に限定して実施しましたが、26年度は東京芸術大学からも参加者を募り、合わせて10名程度の参加者を予定しています。参加学生はフェスティバルで作品を発表する高山明氏の制作チームに加わり、主催者や地域住民と協働して作品制作に参加します。さらに、バンドンで活動するアーティスト・コレクティブやアート・スペースを訪問し、現地のアーティストやキュレーターとの交流を行うほか、歴史的な場所も訪れる予定です。アートを学ぶ学生が「修学旅行」で訪れるべきところだと考えました。帰国後は学生によるドキュメンテーションを作成し、報告会を実施します。

Terap Festival オープニング作品「Indung Braga Berjaga」(2024年, バンドン)